

教育活動 実践紹介

地域との連携を生み出す人として組織

杉並地区

「学校教育コーディネーター」がコーディネートする教育活動実践事例

杉並区教育委員会では、平成14年度から区内の4つの中学校区に「学校教育コーディネーター」を配置しています。学校の余裕教室を転用したコーディネータールームに事務局を置き、そこを拠点として、学校とサポーターとの連絡調整や地域人材を活用した企画提案などの役割を担っています。

こうしたコーディネーターの支援を受け、天沼中学校では地域と連携した教育活動に取り組むとともに、近隣の杉並第五小学校との連携を行っています。

杉並区立第五小学校では、「チャレンジする子の育成」を目指して、かかわりを通じた多様な学習活動に取り組んでいます。こうした視点から、総合的な学習の時間のプログラムも実施されています。

杉並区立天沼中学校では、「地域の中にある学校」を目指して、それぞれの分野で、多彩な人材が活用され、外部との連携を進めています。総合的な学習の時間でも、文化、環境、国際などの現代的課題や伝統工芸体験、職業体験などの校外での体験活動に取り組んでいます。



近所のお店で取材する総合的な学習



地域の方や保護者による読み聞かせの会

三鷹地区

学校支援の組織が自立を目指す教育活動実践事例

三鷹市立第四小学校では、平成12年度から家庭・地域と連携した「参画型コミュニティスクール」づくりに取り組んでいます。平成13年度には、年間で、延べ2000人の保護者や地域の方々が学校に入り、先生方とともに、授業づくりをしています。

コミュニティ・ティーチャー、学習アドバイザー、きらめきボランティアという3種類の教育ボランティアとして、約150の方が登録しています。平成14年度には、こうした活動を今後も継続していきたいと有志が集まり、学校支援のためのNPO化を目指した「夢育支援ネットワーク」が設立されています。